

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA
	学部・研究科等名	工学部
	担当教職員名・役職	坪井望・教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	18	
受入企業等数	9	
受入企業等名	https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/contents/internship/sponsor.html	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2-2.「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	地域創生課題の解決能力と融合的視点をもつ実践的な理工系グローバル・リーダー人材の育成を目的として、留学生とホスト大学生が学年縦断・分野横断・多国籍の理工系学生グループを形成して、新潟地域企業等の協働支援による課題解決型の国際グループワークインターンシップに取り組んだ。本科目は、主に企業の実態と技術に関する知識体験学習を基にした現場技術研修型(テクノロジー型)のインターンシップである。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2-1.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は、工学部の正規の選択科目であり、大学間協定に基づいたメコン諸国大学との双方向留学交流プログラムを修了するにあたっての必修の科目である。また、留学期間内において事前に指定された期間で実施した。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2-1.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3-1.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	教員は、インターンシップ中に企業訪問または引率同伴し、情報収集を行った。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	・英語学習・マナー講習・海外渡航前安全管理オリエンテーション・学習設計シート(企業に作成依頼)を基に事前学習を行って、発表会を実施・留学前・留学後報告書(JASSO様式)(社会人基礎力対応項目を含む)
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	・留学前・留学後報告書(JASSO様式)(社会人基礎力対応項目を含む)・発表会のパワーポイント作成と提出・企業での発表会の実施・学内での成果発表会の実施・振り返り学習(インターンシップ参加で獲得した最も重要な変化を自己評価)の実施・学生の声(インターンシップを行った上での報告レポート)
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	企業訪問または引率同伴によりモニタリング活動を行うとともに、適宜、企業と打合せを行い、インターンシップの内容充実を図った。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・インターンシップ前後の留学前・留学後報告書(JASSO様式)(社会人基礎力対応項目等の到達度のルーブリック評価)の分析・振り返り学習(インターンシップ参加で獲得した最も重要な変化を自己評価)の分析・学内最終成果発表会での参加教員による発表内容評価の分析・企業担当者が作成した評価書(多項目のルーブリック評価と所見)の記載内容の分析・学生の声(学び内容と、その位置づけなどを含むレポート)の分析
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間約10日間(うちインターンシップ実施期間約4日間)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間約10日間(うちインターンシップ実施期間約4日間)
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業でのインターンシップ実施期間(約4日間)の前後に、事前および事後学習を行った。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・企業に学習設計シート(課題と背景、スケジュール等)の事前作成を依頼し、それを基に事前学習することにより、企業協働を深めた。・事前学習やモニタリング等により、大学が企業担当者による学生指導を支援。・企業による学生評価書(多項目ルーブリック評価と所見)を、成績評価項目の一部に含め、教育の質保障を行った。・企業に事後アンケートを行い、回答を踏まえた振り返り意見交換会で、次年度の改善に取り組んだ。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2017/09/09_170T9024_ja_JP.html
問い合わせ	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部連携教育支援課
	担当者役職名	専門職員
	担当者氏名	橋本謙司

1 せ 先	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	renkeiyoiku@adm.niigata-u.ac.jp